

# 行政視察報告

委員会名	文教委員会		
視察日	平成30年5月21日（月）		
視察先	岡山県津山市		
視察委員	峯岸 良至 委員長 平田 みつよし 委員 中村 しんご 委員 つた えりな 委員	大高 拓 副委員長 牛山 正 委員 うめだ 信利 委員	高木 信明 委員 上村 やす子 委員 鈴木 信行 委員

調査項目	体力向上の取り組みについて～リズムジャンプを活用した授業～		
事業概要	<p>津山市教育振興基本計画（第2期）では、健やかな体の育成として、リズム運動（リズムジャンプ）の取り組みを重点取組としている。</p> <p>リズムジャンプは、津山市で開学している美作大学の津田幸保准教授が考案したもので、リズム感を高めることにより運動能力を向上するトレーニングである。津山市では、若手教師が研修を行い短期間で効果や子どもたちが積極的に活用しようとする姿勢を見せるなど効果を実感しており、美作大学と連携して、リズムジャンプを全小・中学校へ普及させ、運動に親しむ環境づくりに取り組むとしている。</p>		
視察内容	<p>(1) リズムジャンプ運動について</p> <p>リズムジャンプとは、1本のラインをリズムに合わせて跳ぶ運動である。子どもはうれしいことや楽しいことがあると飛び跳ねる。跳ぶ運動を音楽に合わせて行えば、楽しい気持ちになるのではないかということから美作大学津田幸保准教授が提唱した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回10分、準備物は1本のラインと音楽CDのみ</li> <li>・音楽に合わせて前後左右のジャンプ、回転等を組み合わせるなどバリエーションは無限</li> <li>・3つの約束 ①ラインを踏まない ②音楽に合わせる ③合図でスタート</li> </ul> <p>(2) 津山市の取り組み状況</p> <p>H28実施校 6校 H29実施校 16校 H30実施校 全27校（予定）</p> <p>(3) 成名小学校の取り組み</p> <p>①目的 ○低学年からの積み重ねで体力の向上を図る（敏捷性・体幹）                  ○運動の基本となるリズム感を養う                  ○脳を活性化させる（集中力が高まるという研究成果）                  ○全校が同じものを行う（異学年交流の場）                  ○高学年のリーダーシップを育む</p> <p>②取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3種目を2回ずつ跳ぶ、約5～10分</li> <li>・1回でたくさんするように声かけ</li> <li>・技の種類（8ビートの基本跳び、16ビートの高速技、裏拍や組み合わせ）</li> <li>・手をつけた発展技</li> <li>・体育の単元の特性に合わせてアレンジ</li> <li>・朝8時5分から2階多目的ホールで1曲分（3種類を2回）                  火曜日→1・3・5年 水曜日→2・4・6年</li> </ul> <p>③考えられる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脚力がつく</li> <li>・考えながら身体を動かす経験ができる</li> <li>・バランス感覚が身につく</li> <li>・運動量が確保できる</li> <li>・いろいろなスポーツの基本的な動きを身につけることができる</li> <li>・リズム感が全体で共有できる</li> </ul> <p>④成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・けがが減った</li> <li>・1日の活動にスムーズに入ることができるようになった</li> <li>・集中力が身につけてきた</li> <li>・リズム感が共有できることで指導がしやすい</li> </ul>		
主な質疑内容	<p>(問) 小学校からやるよりも保育園・幼稚園からやる方が身につける速度はちがうのか。早ければ早いほど子どもの伸び率が高いのか。</p> <p>(答) プロと同じことをやるので、自分はプロと同じことができているという自信が持てる。早ければ早いほど、運動をいやだと思ってしまう子どもが少なくなる。</p> <p>(問) 発達障害のある子どもも含めて、小さいころからリズム遊びを進めていくことによって、それが軽減される可能性は大きいのか。</p> <p>(答) 担任の主観だが、子どもが落ち着きを取り戻すとか、協調性が出てくるなどがみられる。リズムは脳のセロトニンをよく出すので脳が落ち着きやすい状態になる。</p> <p>(問) 新しい技の命名権とあるが、今まで新しい技でどんな名前がついたのか。</p> <p>(答) 最初は発案者の名前だった。色々な発想で思いついた名前をつけると子どもたちもうれしいし、いろいろな発想で、想像力の楽しみ方があると思う。</p>		

# 行政視察報告

委員会名	文教委員会		
視察日	平成30年5月22日（火）		
視察先	滋賀県草津市		
視察委員	峯岸 良至 委員長 平田 みつよし 委員 中村 しんご 委員 つた えりな 委員	大高 拓 副委員長 牛山 正 委員 うめだ 信利 委員	高木 信明 委員 上村 やす子 委員 鈴木 信行 委員

調査項目	英語教育推進計画と教育ICTの活用について		
事業概要	平成32年度の新学習指導要領全面実施に向けて、草津市では英語教育を推進するため、平成28年度から32年度までを計画期間とする英語教育推進計画を策定し、実施している。草津市では、これまでもALTやJTEの配置、教職員研修会の実施による指導力向上などに取り組んできたが、それらの課題や成果を整理し、グローバル化する社会において、英語を通じて人と主体的・積極的にコミュニケーションを図り、思いや考えを生き生きと伝えある力を育成するため、小中一貫英語カリキュラムの作成やICT機器を活用した授業の推進、英語を使ったコミュニケーション・体験活動の実施など本計画の推進に取り組んでいる。		
視察内容	(1) 草津市英語教育推進計画の概要 ①草津市が目指す英語教育 グローバル化する社会において、草津市の子どもたちが英語を通じて人と主体的・積極的にコミュニケーションを図り思いや考えを生き生きを伝え合う力を育成する。 ②平成30年度の主な取組 ア 小中授業改革・「草津型アクティブ・ラーニング」の実現 イ 英語指導助手（ALT・JTE）の配置 ウ 小学校用配信型デジタル教材の配布 エ オンライン授業の実施（Skypeを利用して外国と教室を中継） オ 共有ポータルサイト「たび丸ねっと」の活用（教材データ等を全校で共有） (2) 草津市の教育情報化の取組 ①草津市の教育ICT化の歩み 電子黒板の段階的導入、タブレットPCの導入（全校へ4,800台導入）、校務支援システムの導入（教員負担の軽減、子どもと関わる時間の増加）など ②学校を支える行政の取組 ア ICT教育推進のための組織改編（H30にスーパーバイザーポストの新設） イ 学校ICT支援員の配置、教育情報化リーダーを核とした教員研修体制 ウ 日本教育工学協会「学校情報化優良校」認定の取得（全20校で取得） エ 全国ICT教育首長協議会への参加（協議会設立時点から発起人として参加） ③ICTを活用した先進的な取組 ICT機器を利用した遠隔授業、プログラミング教育、ICTを活用した「考え・議論する道徳」、人型ロボットPepperを利用した取組（市内に15台）など ④今後の取組 草津市教育情報化推進計画の実行、草津市プログラミング教育推進プロジェクト ⑤課題と解決 ア ICTを活用した教育の効果 イ 文部科学省の各事業前後の比較 ウ 指標等による現状把握 共同協働学習ソフト活用数、教育情報化リーダーによる各校の取組の見える化		
主な質疑内容	(問) オンライン授業で現地にいる外国人教師は日本語が話せるのか。 (答) 業務委託という形で、業者が現地の外国人日本語講師、日本語がわかる講師を選定している。 (問) ICT機器の導入で先生方はスムーズに授業改革を進められたのか。ICT機器がどのくらい授業で活用されているかフィードバックされているのか。 (答) 使い方や便利さを研修し、草津型アクティブ・ラーニングの授業の作り方の理念、筋道を伝えると先生方は自ら活用している。また、デジタル教科書の使用回数と共同学習ソフトの使用回数とタブレット使用回数は客観的な数字で把握している。 (問) 現場の具体的な取り組みを行政はどういう仕組みで吸い上げているのか。 (答) 英語に関しては、各校から1人代表者を出す推進委員会を設置している。研修会などに教育委員会が参加して、草の根運動のような何回にもわたる会議を経て次年度の方向性を決めていく中で、行政も予算を取っていく。		